

船井情報科学振興財団 留学・卒業報告書

Funai Overseas Scholarship 2021 年度奨学生

磯部知弥

2025 年 6 月

1. はじめに

2021 年度奨学生として、2021 年 10 月からケンブリッジ大学博士課程に進学した磯部知弥と申します。このたび学位審査が終了し博士課程修了が決まりましたので、ご報告いたします。

2. 学位審査

前回の報告書で記載したように、英国 PhD では 4 年目の間に thesis を提出し viva を受ける必要があります。私の場合、この夏から米国でポスドクとして内定をいただいたこと、thesis 提出から viva までは試験官による査読期間として約 2 ヶ月取られることなどから逆算して、3 月末までに提出する計画としました。進行中のプロジェクトと並行しながらの作業となることも分かっていたため、今年の 1 月（PhD 3 年 3 ヶ月）から余裕を持って書きはじめたつもりでしたが、ペース配分が難しく、結局予定ギリギリの 3 月最終週の提出となりました。Viva は 5 月末に設定され、2 名の試験官と約 2 時間半、thesis を見ながら質疑応答を行いました。血液学や解析・統計に関する基礎知識も質問され、試験・諮問らしいところもあるなと感じましたが、全体的には自分のプロジェクトに関する意義、手法、結果、解釈、限界を（thesis に書いてあることでありますが）改めて説明し、ディスカッションするような形式で、有意義なフィードバックも得つつ楽しむことができました。数か所の修正を指示され、6 月頭に修正版を提出し、正式に承認いただくことができたため、修了が決定した状況です。

3. 研究進捗

PhD thesis はもちろん重要ですが、各プロジェクトは論文として発表する必要がありますので、こちらも準備を進めています。前回の報告書で記載した、ヒトの造血発生・加齢のメカニズムに関するプロジェクトに加え、同様のデータをマウスでも解析したプロジェクトを担当しており、これらを現在それぞれ論文として執筆中です。今後また発表に至り次第、こちらでもご報告できればと思います。

4. おわりに

船井財団にご支援いただいて実現した、ケンブリッジでの PhD を無事修了できたことを嬉しく思います。改めて多大なご支援に感謝申し上げます。7 月からは、米国フィラデルフィア小児病院へ移り、ポスドクとして血液分野、とくに小児白血病の研究を続けていく予定です。PhD で進めてきたプロジェクトもきちんと論文にしつつ、患者さんの治療につながる研究を続けていければと考えています。